2日(土曜日)

える/備える』次世代塾

する通年講座「311 『伝

河北新報社などが運営

く校庭に待機し、児童らの

避難開始が遅れたことや、

第4期は9月、第5回講座

があったことも説明した。 裏山に登れば助かる可能性

オンラインで質疑応答も

第 5 6

事者に取 り組み学ぶ

災啓発の担い手育成を目指 東日本大震災の伝承と防 伝える たかつての学校の様子を紹 介。地震発生直後、 / 備える

タートが問題になる。逃げ

逃げる方向を事前

た東松島市野蒜は大津波

震災発生直後、

自宅があ

佐藤さんは「避難のス

はどう備えるべきかを質 海トラフ巨大地震に教職員

代表理事の菅原節郎さん 子どもグリーフサポート」

のケアに取り組む「東松島

第6回講座は、遺族の心

ちのく創生支援機構

仙台大、学都仙台コンソーシアム、日本損害保険協会、

大、仙台市、東北大、宮城教育大、東北学院大、東北工大、 推進協議会の構成団体は次の通り。河北新報社、東北福祉

311 | 伝える/備える」次世代塾を運営する

宮城学院女子大、尚絅学院大、仙台白百合女子大、宮城大、

れるようにしてほしい」と

に決めて教職員が共有し、 言報が出たらすぐに逃げら

(70)が講義をした。

になった。 に襲われ、

妻と長男が犠牲

遺族の心を理解できるのは 「家族を失った

同じ境遇の自分しかいない

た。

分も救われた_

」と振り返っ

り組みを本格化させ、

と思い、

グリーフケアの取

受講生の声

子どもの命守る

て震災前の

旧大川小の出来事から、

を学びました。将来、 を目指しています。佐藤敏

災で子どもの命を守り、ハ 郎さんの言葉にあった、防 できるようにしたいです。 ッピーエンドの未来を実現

2020年(令和2年)

をテーマに第6回講座をウ たほか、被災者の心のケア

い」という悩みが寄せられ 承への関わり方が分からな

佐藤さんは「当事者し

川小からオンライン中継し 犠牲になった石巻市の旧大 を児童74人と教職員10人が

の学生から「津波被災の伝 行った。岩手県内陸部出身

一関市・宮城教育大1年

旧大川小の校舎の前

光景を語る佐藤さん



ちが校庭を駆け回ったり、

さん(57)が講師を務めた。

ようという熱意だ」とアド

校舎の前などで、児童た

バイスした。

静岡県沿岸部出身の学生

(12)―を亡くした佐藤敏郎

生の次女みずほさん=当時

間に風化する。被災体験に ば、戦争体験はあっと言う か伝えられないのであれ

関係なく、大事なのは伝え

会共同代表で、津波で6年

第5回講座は大川伝承の

中庭で一輪車に乗ったりし

は

津波到達時間が短い南

自分事と捉える 佐藤敏郎さんの話を聞

と、自分や大切な人を考え、 災害が日常を突然奪うこ 備えなければいけないこと

人の身に何が起きたの

震災で亡くなった一

た。 ながるはずです。震災を自 ない防災への強い意志に めてはならないと感じまし 犠牲を二度と繰り返さ 知ろうとすることを止 遺族の思いを知ること

分事と捉えて発信します。

(弘前市・弘前大2年・佐

々木友喜さん・20歳